

# 福祉のひろば

4  
2012

特集

診療報酬・介護報酬の同時改定は  
現場にどう影響するか

寺尾正之・日下部雅喜・横山壽一

サブ特集

新たに社会福祉で働くあなたへ

丹波史紀・井上泰司／利用者・先輩からのメッセージ

新連載

穂波のアメリカ子育て事情／小川政亮(第二部 自伝)



ルイ・アームストロング  
(画・神門やす子)



ひろばトーク

ビデオジャーナリストユニオン代表

えんどう だいすけ  
遠藤 大輔さん

「渋谷プランニューデイズ」～路上からの発信～

編集 総合社会福祉研究所

住む人・使う人が主人公！

私たちは住む人・使う人の  
立場に立って設計しています。  
お気軽にご相談下さい。

## 京都建築事務所

〒 604-8083

京都市中京区三条柳馬場東入中之町10  
代表取締役社長 川下 晃正

TEL (075) 211-7277

FAX (075) 211-7270

http://www.kyoto-archi.co.jp/

〒601-8382

京都市南区吉祥院石原上川原町21  
http://www.creates-k.co.jp

クリエイツかもがわ



TEL 075 (661) 5741  
FAX 075 (693) 6605  
価格税込・送料何冊でも240円

● 悲しみを越えて小さな希望の種をまきましよう

# 重症児者の 防災ハンドブック

最新刊

3・11を生きぬいた重い障がいのある子どもたち

田中総一郎・菅井裕行・武山裕一◆編著



人工呼吸器やたんの吸引など「医療的ケア」が、常時、必要な重い障がいをもつ子ども人達が3・11をどう生きぬいたか支援の記録と教訓からの災害時の備え、重症児者の防災マニュアル！

A5判240頁 定価2310円

よくわかる 子どもの 高次脳機能障害 栗原まな◆著

高次脳機能障害の  
症状・検査・対応法がわかりやすい！



ことが出てこない、覚えられない…わたしは何の病気なの？  
目に見えにくく、わかりにくい高次脳機能障害、なかでも子どもの  
障害をやさしく解説。長年リハビリテーションに携わる小児科  
医が、その豊富な臨床に基づき、家族・本人・支える人たちのな  
に？なぜ？どうすればいい？」に答えます。

A5判116頁  
定価1470円

# 遠くて近かったまち—LISBOA—

ギリシャに次ぐ経済危機と言われ、医師資格や教員資格を取得しても国内での仕事がなく、旧ポルトガル領で仕事を探す、消費税23%の国 滞在記

一七五五年一月一日、イベリア半島から地中海までを大地震と大津波が襲いました。朝方の九時四〇分頃のことです。最も被害の大きかった都市は、現在のポルトガルの首都リスボン (LISBOA) でした。リスボンの建物の八五%が崩壊し、九万人近くが亡くなったと言われていますが、記録が定かではありません。リスボンの市民は、当時のことを大切に伝えてきました。

それから約二五〇年。現在のポルトガルは、ギリシャの経済破綻の後を追うような経済危機が報じられ、ヨーロッパへの移民と麻薬の入り口とまで評されていますが、人々の生活はどうなのでしょう。リスボンでの短い滞在ではすぐにはわかるわけがありませんが、写真を通して垣間見たいと思います。



川岸のブラジリア通り (Av. de Brasilia) 近くで演奏する移民の人たち







リスボンのリベルダーデ通りは、日曜日ともなると朝早くから露店が並ぶ。露店と言っても、フリーマーケット。どう見ても、毎日使っている日用品や装飾品を置いているようにしか見えない。中には、本やレコード、CDなどを集めて売っている人もいる。手動式の蓄音器でファド（民族音楽）を流し、その周りで店主と一緒に踊る光景もある。旅人に本音で語る人もないが、ポルトガルの歴史や伝統と宗教はこれからどう動くのか。ここにも「1%より99%のために」という意識が広がっているのだろうか。「ポルトガル人は耐えてきた歴史があり、国の動きにあらがうことはない」ときっぱり言われた。（写真と文 下野祇園／補足記事42頁）

## 【ひろばトーク】

「渋谷ブランニューデイズ」～路上からの発信～ 遠藤 大輔 6

### ●特集● 診療報酬・介護報酬の同時改定は現場にどう影響するか

診療報酬改定と医療現場への影響	寺尾 正之	10
介護報酬改定と介護現場への影響	日下部雅喜	15
診療報酬・介護報酬 同時改定の意味するもの	横山 壽一	20

### ●サブ特集● 新たに社会福祉で働くあなたへ

対談	丹波 史紀・井上 泰司	22
メッセージ	吉澤 孝行・古永 彩・森川 葉月・ 島田由加里・中山 直和・山本 伸二	30

### ●トピックス●

4月1日から民法等が変わります	岸本由起子	41
-----------------	-------	----

### ●連載●

#### フォーラム

「ひとりぼっち、をなくすには	上坪 陽	46
----------------	------	----

#### ひとつのこと—社会福祉労働と私たちの実践

音楽発表会の取り組みで得たもの	豊里 学園	48
-----------------	-------	----

#### 連載 小川政亮 第二部 自伝(1)

大阪での少年時代	小川 政亮	50
----------	-------	----

#### 相談室の窓から 「縛り」からの解放

青木 道忠	54
-------	----

#### わらじ医者 早川一光の「よろず診療所日誌」

不思議、ふしぎ、人間のつくり(その4)	早川 一光	56
---------------------	-------	----

#### よりあって おりあって—宅老所よりあい物語—

実さんから始まる	下村恵美子	58
----------	-------	----

#### 育つ風景 「本当は大好き！」にたどり着くまで

清水 玲子	60
-------	----

#### 新連載 穂波のアメリカ子育て事情

ハーバードで貧乏留学生生活	吉田 穂波	62
---------------	-------	----

#### 映画案内 『再生の朝に』

吉村 英夫	64
-------	----

#### 現代の貧困を訪ねて

貧困のために参政権が剥奪される	生田 武志	66
-----------------	-------	----

#### 地球へ途中下車

自然が破壊されたとき、文明は……	根津 眞澄	68
------------------	-------	----

#### 私の研究ノート

特養ホーム待機者にもなれない要介護高齢者	村瀬 博	70
----------------------	------	----

#### ホームレスから日本を見れば

ありむら潜	72
-------	----

#### 地域から現場から

生活保護利用者のためのおしゃべりの会	伊東 弘嗣	73
--------------------	-------	----

#### 花咲け！男やもめ

川口モトコ	74
-------	----

グラビア補足 42／今月の本棚 43／みんなのポスト 44／  
しりとりであそぼう！&憲法クイズ 75／福祉の動き 76

### ●グラビア● 遠くて近かったまち—LISBOA—

## 福祉のひろば

2012年4月号

### ●表紙の絵と写真●

絵(ルイ・アームストロング) = 神門やす子  
写真 = 大阪・造幣局の桜の通り抜け(下野祇園)



### ●カット● 川本 浩

ドキュメンタリー映画

## 「渋谷ブランニューデイズ」

～路上からの発信～

えんどう 遠藤 だいすけ 大輔さん  
ビデオジャーナリストユニオン (VJU) 代表

「渋谷で野宿するみんなのために、どうしてもここが必要なんです」——渋谷区役所駐車場（通称・ちかちゅう）で寝泊りする一人、宮沢徹雄みやざわたつおさん（五二歳）は、力強く語ってくれました。二〇一〇年二月、私たちは駐車場に野宿する人々がいること、駐車場の夜間・休日施設によって追い出されようとしていることを知り、動画配信サイト「DROPOUT TV ONLINE（ドロップアウト・ティービー・オンライン）」のニュースとしてこの話題を取り上げました。

都会の真ん中の駐車場で寝泊りする人がいることも驚きですが、区役所の敷地内であるにもかかわらず、保護の対象にもならず、放置され、挙句の果てには追い出しの対象になる。野宿者の人権はここまで軽んじられているのかと、当初は大きな憤りを感じました。そして三か月後、この問題を広く社会に伝えようと、ドキュメンタリー映画のプロジェクトを開始したのです。タイトルの「渋谷ブランニューデイズ」とは、さまざまな事情で駐車場に流れ着いた人々にとって（仲間と出会える新しい日々）を意味します。

流動的な状況にある野宿の人を長期にわたって取材することは、必ずしも容易ではありません。しかし、〈ちかちゅう〉では宮沢さんを中心に粘り強い抵抗のたたかいが続いており、これを軸にすれば、野宿する人々の抱える諸問題を描いていけるとの確信がありました。

宮沢さんはそんなわれわれの意図を汲んで、全面的に協力してくれました。派遣労働から野宿生活に陥った一部始終の再現に力を貸していただいただけでなく、仲間同士のこ





## えんどう だいすけ

90年代からドキュメンタリー制作を始める。自主製作の代表作は「新宿路上TV」(1995/東京ビデオフェスティバルビデオ活動賞)、「ダイアログ・イン・パレスチナ」(2003/同・優秀作品賞)など。テレビ報道では、環境問題、平和問題、パレスチナ問題、医療危機などの特集企画制作に携わる。後発の育成を兼ねたインターネット放送局「DROPOUT TV ONLINE」(<http://www.vju.ne.jp/dtv/>)の活動のほか、独自の方法論によるワークショップやトークイベントの開催など多角的なメディア運動を展開中。写真は「渋谷ブランニューデイズ」より。

コミュニケーションも余すところなく見せてくれたのです。常に笑顔を絶やさずささやかなコミュニティを支える宮沢さんの存在によって、ともすれば暗く見えがちな題材から、私たちは前向きな物語を紡ぎ出すことができました。

現場の支援者の方々はもちろん、たくさんの市民のみなさんからの協力を得られたことも映画づくりの大きな原動力となりました。二回にわたる試写会を通じて多くのご意見を寄せていただき、また多くの資金援助をいただいて、手弁当の製作活動をなんとか乗り切ることができたのです。映画「渋谷ブランニューデイズ」は、まさに「ちかちゅう」で野宿する人々を中心に、それを応援するみなさんの力によって完成しました。

製作にあたって特に留意したのは、市民の生活と貧困問題が地続きの問題として見えるようにすることでした。非正規雇用の労働者が四〇%近くまで増えている昨今、仕事や住まいを失うリスクは大変高まっています。貧困問題は決して対岸の火事ではなく、社会全体がシェアして考えるべき時代になっていることを訴えたかったのです。

試写会では、「野宿する人々の生活がリアルに感じられた」「宮沢さんらの笑顔から勇気をもらった」などの感想を多数いただき、劇場公開(渋谷UP LINK)が決まったほか、クチコミによって各地で自主上映会が進んでいます。今後ともこの映画を通じて、野宿者問題への理解と支援を訴えていきたいと思っています。

※自主上映会の開催申し込みは、[moviebrandnewdays@gmail.com](mailto:moviebrandnewdays@gmail.com) へ。  
映画の情報や予告編は <http://www.shibu-br.jp/> にあります。

# 診療報酬・介護報酬の同時改定は、 現場にどう影響するか

（共通した背景と、それぞれの課題について言及する）

野田政権が財界から「ぶれずに貫徹しろ」と言われた「社会保障・税一体改革」（案）。その先行として位置づけた、六年に一度巡ってくる診療報酬と介護報酬の同時改定。それは、社会保障制度改変へ舵を切る手段として位置づけられ、これまでも事業者を含め国民に大きな影響を与えてきました。

そのキーワードは「施設から在宅へ」「選択できる医療・介護」等でした。しかし現実には、在宅で受け皿がなくても病院から地域へ戻し（追い出し）、在院日数の縮小（入院期間を短縮）、外来回数の縮小（効率のよい医療という名目で複数科受診を抑制）や在宅誘導策等が目白押し。介護は、施設利用待機者を放置したまま、施設入所抑制と要介護度規制等で利用抑制・利用制限を持ち込み、事業者には利用時間の制限や拘束を行い、経済的手段を用いて、一兆二〇〇億円の年間利用を抑制するとしています。その手段の柱が同時改定なのです。

社会保障の合算制度の導入は、医療・介護・保育等の利用状況を合算し、「あなたはこれだけ使っていますよ」という精神的な圧力をかけて、実質的な抑制へとつなげます。この手段は、事業者、利用者、そして自治体の分断装置と化していきます。事業者（職員）は、利用者の状況把握や説明等の時間が奪われ、記録や多くの書類作成を強要され、介護や医療からその人らしさや生活を支えることが奪われてきました。

利用者・国民は、改定による不満、困難さの多くを目の前の職員や事業者に持ち込みます。まさに分断の装